

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



大学生に障害理解を促す



講義「発達障害の子どもの理解と支援」

・大学生に障害について話す機会があった。伝えたことは、(1) 障害の捉え方、(2) 発達障害の子どもの困り感と支援、(3) 出前授業「障害理解教育」であった。90分間、真摯な態度で話を聞く学生の姿に驚くとともに、送られてきた感想とたくさんの質問に感動した。

・障害を社会全体で認め、そして、支えていく大切さを知ることができた。「～しかできない」という考えではなく「～があれば～できる」といった考えに転換する話が印象に残った。今まで自分の中ではできるだけ優しく接していれば良いという意識があったが、そうではなく、その子にとって周りの環境を刺激の少ないものとし、その子にとって分かりやすく現実性のある目標やルールを設定し、その子ができるようになったことを認めていくことが必要となってくることを理解し、自分の意識もそのように変わった。

・障害に早く気付くかが重要である。そのためには、出前授業やインクルーシブ教育を取り入れるなど、障害のある人と実際に触れ合う機会を設け、お互いを知ることが大切である。

・障害はその人の周りの環境や人々の理解によってそうであるか、そうでないかが決まるといことが、客観的に見えた。この講義は、私の凝り固まった障害者の概念を崩し、日本社会を外れた人間的な人情的考えを見直すことができた。

・障害者と時間と場所を共有するだけでは、支えることにはつながらず、ただの自己満足であると思う。障害者を支えるためには、子どもたちに障害に関する適切な認識を与えることを重視し、バリアフリーなどで障害者を支えることが、障害のある人を理解することにつながると考えた。

・日本はまだ障害への理解が薄い。小学生への出前授業だけでなく、企業に対する出前授業をしていくことで、企業及び社会の障害に対する理解を深め、障害のある人たちが活躍できる場を提供していく必要を感じた。

・「障害者の人たちは、私たちの代わりに障害を受け取ってくれた人たち」という言葉になるほど感じた。動物や植物に遺伝子の突然変異があるように私たち人間にも起こる。私たちはそのような罪もなく、障害をもって産まれた人たちを支える義務がある。

・障害の発生は、生物が進化していくための大切な要素だと知り、驚いたとともに、感謝しなければならないと思った。
・困難を減らして平等な状態にするためにも支援が必要で、「自分より劣っている人を情けで助けてやる」という理解不足な考えでなく、平等な社会のためにも可能な限り支援を行っていくように心掛けたい。

・LDの疑似体験を行い、これらの困り感は他人からの評価では測ることができず、本人が報告するしか手立てはないと思った。これからも周囲及び本人の認識により障害を理解していかなければならないと考えた。

・自分一人がよければいいという考えではなく周りに人も幸せであると感じられる社会を一人一人が意識して形成していくことが大切だと思った。

・周りの理解と支援が障害を生み出す基盤であり、乗り越える鍵であることを強調した。上記の感想の他にも、「障害に対する考えが変わった」、「自分を見つめ直す機会になった」等が寄せられた。先月、本校の行事にボランティアとして参加した学生がおり、思いを行動で表してくれたことがうれしい！